

年間行事

歳旦祭 新春祈願

1月1日

新しい年の新しい月を迎えた事を祝い感謝して、皇室と国家の安泰そして国民の繁栄と幸福を祈願するお祭り。

左義長祭

1月15日に一番近い日曜日

「左義長火まつり」とは、古来より小正月の伝統行事で火は人間の生活に欠く事の出来ないものであり私たちは、朝昼晩 火の恩恵を受けている事への感謝のお祭りであります。同時に、ひとたび火の扱いを誤れば家や尊き命さえも失う恐ろしきものでもあります。火に対する安全な取り扱いを神様に誓い「家内安全・無病息災」を心からお祈りすることも大切なことです。古いお札やお守り、しめ飾りなどを御神火にてお焚き上げし、一年間お護りいただいた感謝の気持ちを御神前に捧げ一層のご加護をお祈りしましょう。

節分祭

2月3日

本来節分とは季節の変わり目である立春・立夏・立秋・立冬の前日を指すが、立春の前日は二十四節気の起点、すなわち年の初めであることから重視され、特にこの日だけが節分といわれるようになった。

春季例祭

5月16日～18日

七夜祭

8月17日～21日

8月17日から23日逸の7日間の夜祭で昔の神仏混淆時代の慣行である。盆踊りは方々にあるが7日間もつづくのは珍しい。全く勝見の無形文化財とも云うべきものである。今新しく初めようとしても到底許可にはならんと思われる。この日を待ちかねて近在近郷から踊りの好きな若者が集まって来て大賑となる。この祭の特徴と云えば櫓のない事だろう。日暮れから始まって夜半まで踊りぬく。踊りの輪も二重三重となる。遂に境内いつばいの輪にふくれるので見物客は拝殿の外縁に押上げられる様になった。昔は夜通し踊った様だが、あとでは11時と制限された。翌日の業務に支障のない様に若者達も素直に帰ったものだった。踊りの種類は独特のちゃん踊りが主だったが時にはおはら節や、おけさが這入ったと思う。踊りの衣装は軽装に編笠草履ばきだった。編笠は一面に造花をつけて中には凝った電飾をほどこし、手を叩く度毎にあかりがついて綺麗に光るものもあった様だ。又太鼓の競演も盛に行われた。大ていは文珠堂の前で行われ「だいずり」と呼ばれて達者な芸と云うか、技術と云うか勝見の若者が断然光って居た様であった。

秋季例祭

10月16日～18日

七五三

11月中